

2018年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
理事長所信

公益社団法人乙訓青年会議所  
理事長予定者 崔 祥龍

## はじめに

敗戦の傷跡が残る疲弊した日本を復興させるべく、先人たちは「今」の時代を生きる青年として、高い志を胸に青年会議所運動を始動させました。「新日本の再建」を志し展開した運動は日本各地に広がり、先人たちは互いに切磋琢磨し己を高める修練を積みながら、それぞれの地域で社会の発展に貢献されました。1979年、私たちのまちである乙訓の地においては、時代変革の流れがめまぐるしく、極度の合理化思考の社会にあって、当時の青年たちはまちに住まう人々との共助、あるいは共存共栄の精神を置き去りにしてきた結果、地域社会への情熱が離散して、まとまりのある郷土育成の力が欠如してきたことは見逃さざる事実でした。そのような時代背景において、「今こそ我々は、郷土愛を再認識し、自らの研鑽を通じて、友情を深め、明るい豊かな社会の建設に貢献しなければならない」との志のもと、先輩諸兄姉の英知と勇氣と情熱により、全国で659番目の青年会議所として乙訓青年会議所が創立されました。乙訓青年会議所が創立されてから今日に至る時代の流れの中で、私たちの乙訓の状況は少しずつ変化しています。移り変わる時代の中で、その時々課題を見過ごすことなく、この乙訓を良くしていくためには、私たち一人ひとりが乙訓のことを自分事として捉え、課題の解決方法やより良い乙訓を創造する方法を常に模索し、地域の方々とともにより良い乙訓の実現を目指していかなければなりません。また、どのような時代背景になろうとも、私たちは先輩諸兄姉が積み重ねてこられた38年間の高い志を受け継ぎ、地域に貢献するリーダーとして、「明るい豊かな社会」の実現に向けたまちづくり運動や人づくり運動を展開していかなければなりません。私たちが愛する乙訓のため、目の前の課題に対して逃げずに立ち向かい、笑顔が溢れる乙訓を創造することが、「今」を生きる青年としての使命です。

## 「<sup>こっき</sup>克己！誇りある集団へ」

地域をより良くし、次代に引き継ぐのは私たち青年の役割であり、先人たちが人生をかけ、それぞれのまちを良くしようと尽くしたように、私たちもまた研鑽を積み、自分自身をより良く変革しなければ、周りの人も、乙訓も、そして未来も変えることはできません。また、果敢に挑戦する志高い青年となり、情熱を伝播し、次代を担う人財を育てることでより良い乙訓を創出していかなければなりません。

本年度は、スローガン「<sup>こっき</sup>克己！誇りある集団へ」を掲げ、一何事にも打ち克てる志高い青年となれーをテーマに、乙訓青年会議所は運動を展開してまいります。

「克己」とは、自分に打ち克つという意味であり、「プラスを口にして足で立つから己になる」と書きます。苦しい時こそ自分に挑み打ち克つ。前向きな言葉を口にし、何事にも果敢に挑戦することが自分を大きく成長させます。人生の道のりは様々な苦楽の連続であり、苦しい時にこそ克己して立ち向い、目の前の困難に対して果敢に挑戦し、乗り越えることで今まで出会えていなかった新たな自分に出会えます。できるからやるのではなく、できるかできないか、わからなくともやってみる。失敗をおそれず挑戦する気概で臨むからこそ、未知の可能性を切り拓き、より良い乙訓づくり<sup>まち</sup>に貢献できます。そして、未来を切り拓く人財が増えるほど想いは伝播され、周りの人々や自らが住まうまちをより良く変革していけるのです。また、「人は人によって磨かれる」と言うように、人はともに活動し刺激し合うことによって感化され、互いをさらに大きな自分へと成長させることができます。自分に打ち克ち、刺激し合いながら切磋琢磨する人財が集う組織は、互いを尊敬し高め合える輝かしい集団であり、仲間や先輩諸兄姉、そして日々の活動に一人ひとりが誇りを感じる集団は、まちの中でもひとときわ輝きます。何事にも打ち克てる志高い青年として、研鑽を積みながらより良い乙訓づくり<sup>まち</sup>の実現を目指し、一年間ともに邁進していきましょう。

### 仲間の輪を拡げ、青年らしい澁刺とした組織を構築しよう

青年会議所の会員数は、全国的にみると減少の一途を辿っており、乙訓青年会議所においても今後の2年間で約25名ものメンバーが卒業します。乙訓青年会議所は様々な事業をメンバー自らが行き、多くの経験を積むことができ、気づきや学びを得ることができます。しかし、会員数が減少すれば、これまでの事業規模や予算の縮小、事業数の削減を余儀なくされます。大きな運動を展開するためには、乙訓青年会議所メンバー全員がしっかりとスクラムを組み、一枚岩となって会員拡大活動を推し進め、私たちが行う運動に賛同する仲間を一人でも多く集める必要があります。また、青年会議所は、感動に心を震わせ涙するという強烈な体験ができる「大人の学び舎」です。自分に打ち克ち得られる強烈な体験こそが、新たな自分との出会いであり、これからの人生の宝となって、未来への道筋を示してくれる羅針盤となります。そのような青年会議所の魅力について情熱をたぎらせ伝播し、多くの仲間を集める必要があります。そのためには、まずは自らの活動についての想いを熱く語ることによって、相手の心に響かせ仲間の輪を拡げなければなりません。情熱をたぎらせる人の周りには必ず情熱的な人が集まります。また、人と接することで人は感化され、自らもまた熱い想いを持つ人へと変化します。情熱を高め、より効果的に伝播するためにはどのように行動すべきかを改めて学ばなければなりません。さらに、地域で活動する人財を発掘するために、出会いの場を設けるとともに、青年会議所の基礎知識や活動の理念を学ぶ場を設け、これからの乙訓青年会議所を担うメンバーを育成しなければなりません。メンバー一人ひとりが一人を真剣に、乙訓青年会議所が行うまちづくり

や人づくり活動の魅力や楽しさを伝播することができれば、おのずと会員拡大に繋がると考えます。リーダーの集まりである乙訓青年会議所メンバー一人ひとりが率先して行動し、数年先の目標の一つとして100名を超すメンバーが集うLOMとなれば、多くの事業をより積極的に行うことができ、大きな運動の展開へと繋がります。そのような気概で私たちの活動についての情熱をしっかりと伝播し、仲間の輪を拡げていきましょう。

青年会議所の大きな特徴の一つとして40歳での卒業が挙げられます。限りがあることで一つひとつの瞬間を大切にし、真剣に活動することができるとともに、卒業によるメンバーの入れ替わりにより、組織の活性化が常に図られます。また、もう一つの特徴として単年度制が挙げられます。毎年新たなメンバーと委員会活動を行うことで、多くのメンバーと接し、様々な経験を積み重ねることができます。しかし一方では、活動をともにするメンバーが毎年異なることになり、組織の力強い運動や活動を行うためには、強固な人間関係を構築する必要があります。また、現在の乙訓青年会議所は入会間もない新しいメンバーが多く、また、歴の長いメンバーも在籍しており、新旧の個性豊かなメンバーに恵まれています。それぞれのメンバーが個性と能力を十分に発揮するためには、メンバー相互の交流を促進し、熱い絆を構築する必要があります。そのためには、同じ志に向かって真剣に取り組む活動を通して熱い友情を育み、互いの個性を尊重し、相手のことを思いやりながら素直に心を開き、時にはぶつかりながらも本音を話せる関係を構築しなければなりません。そして、メンバーが一枚岩となって青年会議所運動を推進することで、乙訓青年会議所全体が対外の方々をも巻き込む澁刺とした活動を行う原動力となり、市民、行政、地域諸団体の方々が三位一体となったより良い乙訓<sup>まち</sup>へと変革する力となると考えます。また、日頃から私たちの活動を支えてくれている家族や社員に感謝し、交流できる場を設け、なぜ自分にとって青年会議所活動が必要なのかを理解して頂くことによって、さらなる理解と協力を得て、今後のより積極的な活動に繋がればなりません。そして、地域の枠を越えた事業へも参加し、広い範囲での会員交流を行い、友情を育むとともに、そこで得た経験を乙訓青年会議所での事業に反映させられるように、積極的な参加促進を図らなければなりません。さらに、特別会員との親睦を図り、世代を超えた英知を知り自らに落とし込むことで理解を深め、より力強い乙訓青年会議所の活動に繋がればなりません。地域で輝く魅力溢れる青年らしい澁刺とした組織となり、この乙訓<sup>まち</sup>をより素晴らしいものに変えていく力強い原動力となるように、会員交流を促進していきましょう。

### 未来の宝が愛を実感し、市民が笑顔になる乙訓<sup>まち</sup>を構築しよう

子供は未来の宝であり、まちの宝です。私の幼い頃は近所の方々との関わり合いが多く、隣近所の繋がりに育てて頂いたこともあり、また、同じ環境で過ごしてきた先輩や仲間との繋がりが今でも強く、地元への愛着はひとしおです。また、商店の多い地域であったこ

ともあり、常に大人に見守られていたように思います。しかし、スマートフォンや携帯ゲーム機などのコミュニケーションツールの発達や、昨今の子供をめぐる痛ましい事件などにより、外に出て遊ぶ子供は少ないように思います。また、大型商業施設の進出や都市への労働人口の流出により、まちの中で大人と子供の関わり合う機会が少なく、子供の愛郷心を育みにくい環境にあります。さらに、いじめや引きこもりなど、子供を取り巻く環境は決して樂觀できる状況ではありません。子供の健全な育成には、大人との関わりが必要不可欠であり、大人が子供をまちの宝と考え育てる意識をもち、愛や慈しみを伝える必要があります。なぜなら、未来のまちの担い手は今を生きる子供であり、まちの未来を担う意識を育むには、自分のまちやそこに住まう人に親しみを感ずる心を育成しなければなりません。子供に愛や慈しみを伝えることは私たち大人の重要な役割であり、それは人生において最も尊い役割の一つであるとともに、未来に向けたまちづくりであり、人づくりだと考えます。そのことを地域の大人に伝え、子供が地域の大人からの愛を実感する乙訓を創出しなければなりません。そして、子供たち自身にも愛を感じる豊かな感性を育てて貰うために、先輩諸兄姉が受け継いでこられた乙訓文化少年団や、乙訓DREAMフェスタを通して、子供たちの心に残る経験や体験ができる場を設けなければなりません。さらに、近い将来、大規模な災害が起きる可能性が極めて高いと言われている今、未来の宝が暮らす地域を守るために、災害時の対応も含めた防災に対する意識をメンバーが常にもち、乙訓青年会議所のこれまでの取り組みを継続し、実行を伴う具体的な防災対策を進めなければなりません。未来の宝が生まれ育った地域に愛を実感できる乙訓をつくり上げていきましょう。

二市一町からなる乙訓地域は、京都と大阪の中間に位置し、交通の利便性が高く、また、歴史的な史跡や自然環境にも恵まれており、大変住み良いまちと言えます。全国的に人口が減少する中、乙訓地域の人口は緩やかに増加していますが、その一方で、昼間人口の流出の多いまちであり、地域コミュニティは希薄化しているように感じます。市民が主体となる乙訓をつくるためには、まずは自らの住まうまちを愛し、まちが抱える様々な課題を自分事として捉える地域愛を育む必要があります。この乙訓をさらに発展させるためには、市民一人ひとりがまちの課題を認識し、自律的に、かつ、他者との協働を図りながら、課題の解決方法や地域としての新たな価値を創造する意識を醸成し、地域力をさらに向上させる必要があります。乙訓青年会議所では近年、乙訓DREAMフェスタを通して、地域諸団体や二市一町の行政との繋がりを強めており、市民の方々にも多数参加して頂いています。また、昨年度は乙訓まちづくり実行委員会を立ち上げ、地域を超えた交流を図ることで、市民主導型社会を進める新たな価値の創出に努めてまいりました。本年度も、市民が主体となるより良い乙訓の創造を目指し、乙訓DREAMフェスタと乙訓まちづくり実行委員会を継続し、市民、行政、地域諸団体の方々との交流をさらに促進し、多くの市民の方々が集う市民主導型のまちづくりを推進しなければなりません。そして、ファイナル

アクションプラン「地域と共に夢と誇りを育む乙訓創り」に向けて確実に歩みを進め、乙訓に住まう人々が互いを笑顔にする市民主導型社会の実現をさらに進めていかなければなりません。また、まちの代表を決める投票は、市民自らが住まうまちのこれからを決定する大切な自分事としての行動であり、市民に候補者の情報を提供する場を設け、主体的に選択できるように寄与しなければなりません。さらに、まちの未来を担う若者が政治に参画する意識を向上させるためにも、若者への動員を積極的に図り、主体者意識を喚起しなければなりません。「明るい豊かな社会」の実現に向けて、市民が地域のことを愛し、主体的に関わることで笑顔になれる乙訓を創出していきましょう。

### 人間力を向上し、活発な青年会議所活動を発信しよう

現在の日本は世界でも類を見ない速度で進行する超高齢社会となり、同時に少子化も進行していることから、社会保障問題や人口減少による働き手不足の問題など、先行きの見えない時代に突入しています。乙訓地域も例外ではなく、二市一町の人口の約25%を高齢者が占めており、2040年には33%を越えると予測されています。これまで地域社会に貢献してこられた高齢者への思いやりは大切ですが、働き手となる若者の比率が低下すれば、一人ひとりの地域社会に対する役割は相対的に大きくなり、責任も増大します。このような時代だからこそ、地域に根差し活動する青年経済人である私たちは、地域社会を構成し運営する自立した一人の人間として、力強く生きていくための人間力を向上させ、地域に貢献するリーダーとしての使命を果たす必要があります。人間力を向上させるためには、目の前に起こる事象に一喜一憂せず、物事の本質を冷静に見定めることが重要です。目先の感情によって目的を見失わないように、自分の気持ちを常に平静に保ち、良い時も悪い時も感情に支配されない心を備えなければなりません。また、どのような困難に直面しようとも、勝機を見出そうとする積極果敢な姿勢が重要です。良いイメージを持つことを習慣化し、何事に対しても前向きに捉える思考を身につけることで、現状を切り拓く変革の能動者としての資質を高めなければなりません。物事の本質を見定め、積極果敢に前進することによって、青年会議所活動や自身の経済活動においても、目的を見失うことなく方向性をしっかりと見据えた力強い前進が可能となります。そして、研鑽を積むことによって自身の資質を高め、仲間とともに切磋琢磨しながら活動することで、より良い地域を創造する人材の育成に繋がると確信します。何事にも打ち克ち、困難を乗り越えられる人間力を向上していきましょう。

乙訓青年会議所では、広報紙やSNSを用い、私たちが行う活動の情報や地域の方々の情報を発信してまいりました。青年会議所の運動は、地域の方々にまちの現状や課題について発信し、理解と協力を得ることでより大きな運動へと繋がります。今後も私たち青年の地域に根差した活動を積極的に発信し、さらなる理解と協力を得ていく必要があります。

近年、新たな情報発信ツールの普及に伴い、情報発信は誰もが素早く手軽に行えるようになってきました。私たちの情報を発信する手法も、これまでの広報手段に加え、地域の方々により届きやすくするための変化が必要です。費用対効果を考えながら、SNSなどの情報発信ツールをさらに活用し、私たちの情報を発信する手段を増やすことで、情報の受け手となる地域の方々の幅を広げ、より拡散しやすくする広報の仕組みを考えなければなりません。また、単に情報を発信するだけの広報ではなく、情報を受け取った方々の興味を引き、参加、協力を繋げることが重要です。乙訓青年会議所が行うまちづくりや人づくりに関する事業の内容や、地域の方々が行う活動の内容をしっかりと伝えることで、各種事業や活動に興味をもって貰い、参加、協力を繋がるようにしていかなければなりません。また、事業準備でのメンバーの頑張りなど、他のメンバーが普段は目にする事のない活動にも着目し、発信していかなければなりません。そうすることで、新たな共感と理解に繋がり、乙訓青年会議所のブランディング強化に繋がります。そして、40周年を控え、創立当初から現在に至る活動の軌跡や、各種事業の成り立ちを改めて学ぶ場を設け、創立を祝うことで組織の絆を強化しなければなりません。さらに、青年会議所には出向という形での様々な気づきや学びの機会があり、求めればどこまでも自分を高めることができます。また、その気づきや学びが持ち帰られた時に、乙訓青年会議所が行う運動の大きな底力となります。出向先での様々な事業とメンバーの活躍を伝え、そこから得た気づきや学び、楽しさを積極的に発信することで、出向への意欲を高める機会を提供しなければなりません。乙訓青年会議所と地域の方々の「今」を伝え、活発な活動を積極的に発信していきましょう。

### 次代に引き継ぐ組織運営を推進しよう

青年会議所は、「計画立案・実行・結果検証・改善」というサイクルに沿って事業を行い、より洗練されたものが次代へ引き継がれます。乙訓青年会議所においても、これまでの38年間で培われてきた組織体系や会議運営方法が存在します。入会間もないメンバーが役職を担う中、組織を継続的に発展させるためには、これまでのシステムを妥協することなく継続するとともに、守るべきルールを徹底し、次代に引き継ぐ必要があります。また、地域の方々からの負託と信頼に応える公益法人として、公益性の高い財政支出と透明性の高い組織運営を今後も継続していく必要があります。私たち一人ひとりがともに活動するメンバーの時間を預かる責任を自覚し、活動の方向性とそれぞれの役割を認識するとともに、各種会議の場において、建設的で実りある議論が活発に行われるように、上程スケジュールや議案作成方法などの基本的なルールを周知徹底しなければなりません。そして、活動の方向性や根拠に基づいて作成されているかを意識し、各委員会との連携を密に行い議案作成に寄り添わなければなりません。また、貴重な財源をより効果的に活用することを常に意識し、公益性を遵守した予算編成と予算執行への審査を行うとともに、各種権利

に関するコンプライアンスの審査を行い、透明性が高く誰にでもわかりやすい運営を行わなければなりません。さらに、今後も乙訓青年会議所の活動を継続するために、組織の根幹である定款、規則に関して改めて学び、各項目の意味を理解したうえで、現状に即した改定を行わなければなりません。これまでの組織運営をしっかりと継承し次代に引き継ぐとともに、乙訓青年会議所の次代を担う人財を育成する気概をもって、厳しくも優しく、妥協することなく一年間活動していきましょう。

### 英知と勇氣と情熱をもって、未来への礎を築こう

乙訓青年会議所では、1998年に「どのような時代変遷の中でも、普遍的な乙訓青年会議所としてのビジョンを策定する必要がある」との結論に達し、2020年を一つの到達点として、長期ビジョンである2020年ビジョン「地球市民意識あふれる乙訓」が策定されました。その理念のもと、短期活動計画を策定し運動を展開しています。本年度は、2014年に策定された短期活動計画であるファイナルアクションプラン「地域と共に夢と誇りを育む乙訓創り」の5年目であり、最終年度に向けて活動を検証していかなければなりません。そして、次年度には創立40周年目を迎えることから、乙訓づくりへの想いが積み重なり迎えた大切な一年を先輩諸兄姉とともに称え合い、祝うことのできる記念となる事業の準備を進める必要があります。また、2020年を2年後に控えていることから、長期ビジョンについての検証と新たな構想を策定する準備を進める必要があります。未来への展開には、まず私たちがどこに立っているかを認識することが必要不可欠です。未来を切り拓き、次代に繋ぐ礎を築くために、長期ビジョンが策定された当時の背景を知り、現在の状況を分析し、今後の乙訓の発展には何が必要かを考察することが重要です。乙訓青年会議所が、地域の中核を担う存在として、地域の方々からの負託と信頼を得るためにも、英知と勇氣と情熱をもった私たちが乙訓の未来を創造し、その実現に向けてどのように取り組まなければならないかを考え、未来への礎を築いていきましょう。

### むすびに

未来とは誰もが経験したことのない未知の領域であり、だからこそ、自分に打ち克ち、一步を踏み出さなければなりません。時には一步を踏み出すことに足がすくみ、躊躇する時もあるかもしれません。しかし、一步を踏み出し、挑戦することから新たな気づきや学びが得られ、自分自身の大きな成長に繋がります。一人ひとりのメンバーが乙訓青年会議所の明日をつくる希望です。乙訓青年会議所のメンバー一人ひとりがJAYCEEとしての誇りを持ち、乙訓の未来について一所懸命に考え、果敢に挑戦することでより良い乙訓への変革に繋がります。40歳までの限りある時間の中で、どのような時でも諦めることなく、乙訓のため、仲間のため、家族のため、そして自分のために、己に打ち克っていきま

しょう。どこまでも己を高め、乙訓<sup>まち</sup>に貢献できるリーダーになるために。

こっき  
克己！誇りある集団へ  
何事にも打ち克てる志高い青年となれ